



# にじのはし幼稚園 園だより

平成27年 6月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 新井智子



## 清々しく整える

園長 新井智子

門の横のユスラウメが赤い実を付けました。子どもたちは収穫し、爽やかな甘酸っぱさを味わいました。アジサイも色付き始め、園内の花壇や小さな畑は、初夏の彩りへと移っていきます。

この春は、例年にも増してキヌサヤが大豊作でした。子どもたちは、湯がいたキヌサヤを食べ、そのシャキシャキとした食感と甘さを十分に味わうことができました。

収穫が終わった後、5歳児が、次の苗のために畑を耕します。枯れた茎を抜き、土を掘り返すと同時に、今年は、野菜くずを使った有機肥料づくりにも挑戦しました。5歳児が手間暇かけた畑は、すっかりなだらかで豊かな土壌となり、サツマイモの苗つけを待つまですべてになっています。

さて、戸外遊びが心地よい季節、3歳児は園庭で素足になって砂や水の感触を存分に楽しむ遊びをしています。ふと見ると、ごぎの縁に、脱いだ靴下が入った靴がきれいに一列に並んでいます。脱いだ自分の靴をきちんと揃える、遊びの後自分たちで履きやすいように整えるなど、折に触れて担任は丁寧に指導しています。4・5歳児になると、遊びの中でも自然に脱いだ靴を揃えて端に並べたり、履きやすいように向きを変えたりする姿が見られるようになってきます。もちろん、園だけではなく家庭での躰で身に付いたことでしょう。

毎日の生活の中で、落ちていたものを拾って片付ける、製作で使った素材を形ごとに分類する、ものを投げずに渡したり置いたりするなどのマナーや所作は、みんなで気持ちよく生活を送るうえでとても重要で、ものを大切に、人を思いやる気持ちにもつながっていきます。

ところで、昔々私が小学校一年生の時、その当時給食でゆでたまごがよくできました。もちろん殻つきのままです。担任の先生は、一年生を前に『ゆでたまごの割り方』を、モデルを示して教えてくださいました。たまごの中央あたりをコンコンと一周細かくひびを入れ、帯状に殻をとっていきます。そして、左右に分かれたボウルの形をした殻をスポッととり、2つを重ね、それを入れ物にして砕いた小さな殻を入れたのです。一連の所作の美しさに私は見とれてしまいました。以降、ゆでたまごの殻を剥くたび先生の教えを思い出しています。

畑にしろ、ゆでたまごにしろ、大小にかかわらず、清々しく場やものを整えたり始末したりすることは、ものへの感謝と次にすることへの心の構えになります。

そして、整えられた場やものに触れたとき、清々しさとともに心が豊かに満たされる気がします。

楽しかった第三台場への親子遠足

